

科目名	学校経営と学校図書館		
担当教員名	今井 福司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書/司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校図書館は、第二次世界大戦後の日本の占領政策の中で学校図書館法が制定される中で、学校教育に資する施設であることが明記され、学校教育の中で学校図書館とはそれを支える基盤とされている。しかし実態は必ずしも一致しておらず、新たに司書教諭となる教員が積極的に実践を展開していく必要がある。そこで、本授業では学校教育や学校図書館に関わる基本的な知識を身につけ、最終的には学校教育の目的と対応させた学校図書館実践について、受講者がアイデアを提示できるようにすることを目標とする。そうした能力を身につけるためには、受講者の主体的な学習が欠かせない。そこで授業においては、頻繁に発言を促すので予め留意しておいてほしい。また、後半にはグループ作業の時間をとり、作業を行ってもらった上で発表を行う機会を設ける予定である。なお授業進行の都合上初回到座席を指定するので、特に初回の遅刻欠席はしないこと。加えて集中講義であるので、遅刻・欠席・早退は特段の理由がない限り行わないこと。

内容

学校教育における学校図書館の位置づけと、そのあり方について概観しながら解説する。その他、実際に学校経営の中核に学校図書館を位置づけた事例など、具体的な実践例についても紹介していく。授業は基本として以下の構成で進行するが、受講者の反応や希望、展開状況に応じて変更することがある。

(第一ブロック：学校図書館を取り巻く歴史・制度)

1. イントロダクション、学校図書館の現状の確認
2. アメリカ・日本における学校図書館の歴史とその理念・意義
3. 学校図書館関係法規と位置づけ
4. 学習指導要領と学校図書館

(第二ブロック：学校教育の中での学校図書館の機能)

5. 学校図書館の整備Ⅰ メディアの選択と組織化
6. 学校図書館の活動Ⅰ 読書センターとしての活動
7. 学校図書館の活動Ⅱ 学習・情報センターとしての活動
8. 学校図書館職員の位置づけ、司書教諭の任務と役割
9. 学校図書館の経営(学校図書館経営計画の立案,学校教育 計画の中での位置づけ)

(第三ブロック：学校図書館実践の提案と評価)

10. 学校図書館の整備Ⅱ 環境整備(施設・設備)
11. 学校図書館の評価と改善
12. グループ作業(作業内容については、授業中発表する)
13. グループ作業発表会

(第四ブロック：学校図書館の展望)

14. 情報化社会、生涯学習時代における学校図書館の位置づけ
15. 最終試験

評価

期末試験50点，授業参加および出席状況を50点として評価を行い，60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・古賀節子編 『学校経営と学校図書館』 司書教諭テキストシリーズ 第1巻 樹村房 2002

【推薦書】

- ・坂田仰，河内祥子，黒川雅子編著 『学校図書館の光と影』 八千代出版 2007
- ・渡辺信一先生古希記念論文集編集委員会 『生涯学習時代における学校図書館パワー』 日本図書館協会 2005

科目名	学校図書館メディアの構成		
担当教員名	近藤 秀二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書 / 司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校図書館は、生徒自身が学校図書館にある各種のメディアを有効に活用して、自ら学んでいく学習力の養成を図っていく場所である。現在の情報化社会において、「読書センター」の機能を持ちながら、「学習・情報センター」としても機能していかなければならない。

司書教諭は、今日の学習環境の変化に伴い、学校図書館で取り扱う資料「図書」や「逐次刊行物等」の紙媒体の資料だけでなく、「視聴覚資料」や「インターネット等の電子資料」の種類とその特性を理解して、生徒にとって必要な資料を選択、収集して組織化していく必要がある。

司書教諭としての実務能力を持てるように、講義だけでなく演習も加えながら、学習していく。また、実際に学校図書館でどのような運用が行われているかも具体例を含めて説明していく。

内容

- 1 授業の進め方と目標(ガイダンス)
- 2 学校図書館を取り巻く環境と現状
- 3 学校図書館の運用(事例)
- 4 学校図書館での取り組み
- 5 学校図書館の役割
- 6 学校図書館メディアの役割・種類と特徴
- 7 学校図書館メディアの選択のための情報源
- 8 学校図書館メディアの収集方針
- 9 学校図書館メディアの廃棄
- 10 学校図書館メディアの組織化
- 11 学校図書館メディアの配列(分類)と配架
- 12 学校図書館メディアの組織化(目録と分類演習)
- 13 学校図書館メディアにおけるコンピュータの活用
- 14 学校図書館メディアにおける著作権法
- 15 まとめ

評価

出席時間や、課題および演習に対する評価、小テスト等の結果で総合的に評価する。

出席で30点、課題・演習で30点、小テスト等で40点により評価を行う。

総合60点以上で合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特になし(必要に応じ適宜プリント等配付します)

【参考図書】 志村尚夫編著 『学校図書館メディアの構成とその組織化 改訂版』 青弓社 2009

ほか、授業の中で、その都度挙げて説明していく。

科目名	学習指導と学校図書館		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書 / 司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校図書館は教育活動を支援し推進するという重要な任務をもっている。学校図書館の積極的・効果的な利用を図る上で、児童生徒に対し、図書館および各種メディアを活用し、自主的な学習能力・態度を養わせるための指導が必要である。そのための指導原理と方法を具体的・実践的に学習し、あわせて教員に対するサービスと協力についての理解を深める。

内容

1	教育課程の展開と学校図書館の役割
2	主体的学習とメディア活用能力
3	メディア活用能力育成指導の内容と指導計画
4	指導内容の具体的検討(課題調査及び発表)
5	指導内容の具体的検討(課題調査及び発表)
6	指導内容の調査結果の発表・討議
7	指導計画作成のための原理
8	指導内容の体系化(グループ討議)
9	指導内容の体系化(グループ討議)
10	メディア活用能力育成指導の年間計画作成
11	メディア活用能力育成指導の方法
12	特定学年の単位時間内での指導案作成
13	集団指導・個別指導の意義とその展開
14	メディア活用能力育成と情報サービス
15	教員に対する支援と働きかけ

評価

課題の調査および発表30%、授業への出席20%、メディア活用能力育成のための指導案作成および理解度確認のための
 論述レポート50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	読書と豊かな人間性		
担当教員名	萩原 昌好		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書 / 司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

読書とは、人間が最も人間らしい行為の一つである。特に図書館を基に考えた場合、幼児期から高齢者までを含めてどのような図書館での学習が可能か、まず考えておく必要がある。つまり生涯学習の一環として捉えた後、改めて、学校教育における図書館教育とはどうあるべきかを考えるべきなのである。図書館司書教諭とは単に教育現場で学年や、学校の要請に応えるだけの存在であってはならない。では、どうあるべきか。それを考えるのが本講座のねらいである。

内容

まず、読書とは何かを考える。今日どのような読書環境に子供たちがおかれているのか、そしてどのような書物が読まれているのかできる限り新しい資料に基づいて考察する。次に読書がわれわれ人間にどのような影響を与えるのかを考え、それを基に読書の教育効果について資料を基に考える。現在読書離れが叫ばれて久しいものがあるが、本当に子供は本を読むことが嫌いなのか。これを現場サイドから眺めてみると必ずしもそうでないことがわかる。つまり、「書物」に対する感覚が鈍くなりつつあること、それは情報過多のためではなく、ある種の偏り現象であることが理解されてくるであろう。こうした現象が年々早まっていることを心得ておかなばならない。そして、それと人間のみが持つ心とどのように脈絡付けるのか、それを持って本講座の内容とする。

評価

レポートおよび出欠によって評価する。出席点50、レポート点50 とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキストについては講義の折、適切なものを指示する。また必要な読書指導に関する資料、文献を紹介し、自分なりの司書教諭としての自覚と使命を持つ事が出来るよう指導する。

科目名	情報メディアの活用		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書 / 司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

これからの学校図書館は、生徒の学習を支援する学習センターの機能と、生徒の情報リテラシーの育成を支援する機能が一層重要となる。そのために、従来の各種メディアや情報ソフトの整備の他に、マルチメディアに対応した情報機器やインターネット接続など、学校図書館の情報化に対する対応が求められている。

このような学校図書館を運営し、生徒や教職員の情報活用能力を育成できる司書教諭になるために学習することをねらいとする

内容

1. 学校図書館の情報化の施策の流れ
2. メディア専門職としての司書教諭
3. 高度情報通信社会と学校図書館
4. 情報メディアの発達(演習)
5. 情報メディアの特性と選択(実習)
6. 視聴覚メディアの活用
7. 教育用コンテンツの活用(演習)
8. データベースと情報検索(実習)
9. インターネットによる情報活用(演習)
10. インターネットによる情報発信(実習)
11. 学校における情報共有
12. インターネット利用の光と影
13. 著作権とメディア
14. 演習・実習
15. まとめ

評価

授業内に課する演習(4課題を40%評価)と実習(4課題を50%評価)を評価し、出席状況(10%)を合わせて総合的に評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】井口磯夫編著『情報メディアの活用』樹村房

【参考図書】アメリカ公教育ネットワーク・A L A、足立正治・中村百合子監訳『インフォメーション・パワーが教育を変える』高陵社

堀田龍也著『メディアとのつきあい方学習』ジャストシステム

越智貢・土屋俊・水谷雅彦編『情報倫理学』ナカニシヤ出版

田屋裕之著『電子メディアと図書館』勁草書房

科目名	養護教諭実践論		
担当教員名	山本 和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護教諭の資質と能力を確保するために、これまで学習した知識をもとに、子どもたちの心身の健康課題の捉え方について理解し、実務へ活用する方法を学ぶ。

1. 子どもたちの心身の健康状態の把握とその活用について学ぶ。
2. 学校組織と養護教諭の執務との連携について理解する。

内容

1. 保健に関する各種計画の立案と留意点等について
 - ・ 学校保健年間計画について
 - ・ 定期健康診断の実施について
2. 健康課題に関する保健指導について
 - ・ 保健だよりの作成
 - ・ 保健指導案の作成と指導の実際

評価

出席40点、課題提出で60点(提出20点・内容40点)とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 采女智津江編集 『新養護概説』 少年写真新聞社

【推薦書】 『児童生徒の健康診断マニュアル』改訂版 日本学校保健会

科目名	基礎栄養学		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

健康な心身を獲得するために必要な、栄養学の基礎項目を講義する。すなわち、三大栄養素(タンパク質、脂質、炭水化物)と微量栄養素(ミネラルおよびビタミン)、ならびにエネルギー代謝について説明する。さらに食事摂取基準から、ライフステージごとの健康や栄養の特徴を理解する。

内容

1	栄養と健康
2	栄養素の消化・吸収・代謝
3	たんぱく質とは何か
4	たんぱく質の働き
5	脂質とは何か
6	脂質の働き
7	糖質とは何か
8	糖質の働き
9	エネルギー代謝
10	ミネラル・水分の必要性
11	ビタミン・食物繊維の必要性
12	日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド
13	児童・学童期の栄養学
14	思春期・青年期の栄養学
15	試験

評価

レポート40点、ペーパーテスト60点とし、トータル60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】わかりやすい栄養学 吉田 勉 編 三共出版

【推薦書】栄養学総論 林寛著 三共出版、食事と健康の科学 池本真二、稲山貴代 編著 建帛社

科目名	食品学		
担当教員名	増沢 光信		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

食品とは何か、食品と栄養、食品の機能及び食品の分類など食品の基礎的なことを先ず説明する。次に食品の栄養素、特に基本となる水分、タンパク質、脂質、炭水化物、ミネラル及びビタミンについて要点を整理して説明し、併せて食品の消化吸収及び日本食品標準成分表の読み方などについて説明する。さらに、食品の新しい機能、第三次機能(生体調節機能)について解説し、健康志向が高まる中において、特に生活習慣病予防の観点から、食品の新しい機能を利用した保健機能食品について説明し、幅広く食品に対する理解を深めることをねらいとする。

内容

基本的には教科書に沿って授業を進めるが、教科書を離れて関連の情報などを補足的に説明する。授業内容の要点を別に配布する。また適時、図表やOHPあるいはプロジェクターによる説明をおこなう。

主な授業内容は次の通りである。

1. 食品とは何か、食品と栄養、食品の機能、食品の分類及び食品の安全性確保
2. 食品中の水の状態と役割について
3. 食品成分の種類とその基本的性質
4. 食品の消化吸収とエネルギー
5. 日本食品標準成分表
6. 加工食品
7. 食品の第三次機能と機能性食品及び保健機能食品制度
8. 生活習慣病に対する食品の機能性と機能性成分

評価

ペーパーテストをおこない、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】青柳康夫、筒井知己著 『標準食品学総論』 医歯薬出版

【推薦書】林寛編著 『食品学』 弘学出版 498.51/H

科目名	食機能論		
担当教員名	井手 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

食品には三つの機能があるといわれる。まず食品には生命活動に不可欠な栄養素が含まれていることが必須であり、これは一次機能(栄養機能)と呼ばれる。また、食品には視覚、嗅覚、味覚、触覚などの感覚を通して、食欲を促す作用を持つことが必要であり、これを二次機能(感覚機能)とよぶ。これらに加えて、食品に含まれる多くの成分は生体の代謝、免疫系、内分泌系等を制御することにより健康の維持・増進と疾病の予防・治療に有効な生理機能を示す。これは三次機能(生体調節機能)と呼ばれる。一般的に食品の機能といった場合、この三次機能を指している。ここでは、食品の持つ様々な生体調節機能について述べ、食品の健康増進効果について理解を深める。

内容

1	食品の機能とは
2	機能性食品の現状(栄養機能食品、特定保健用食品)
3	抗酸化機能 (活性酸素の生成と生体への影響)
4	抗酸化機能 (抗酸化物質)
5	抗酸化機能 (抗酸化機能食品)
6	消化吸収促進と代謝改善機能 (消化吸収のメカニズム)
7	消化吸収促進と代謝改善機能 (ミネラル吸収のメカニズムと吸収促進物質)
8	消化吸収促進と代謝改善機能 (ビタミン吸収のメカニズム)
9	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能 (食物繊維)
10	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能 (糖アルコール、オリゴ糖)
11	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能 (プレバイオティクスとプロバイオティクス)
12	脂質代謝改善機能 (脂質代謝とその制御メカニズム)
13	脂質代謝改善機能 (多価不飽和脂肪酸、大豆タンパク質、リン脂質)
14	脂質代謝改善機能 (ジアシルグリセロール、共役リノール酸、フラボノイド、リグナン)
15	酵素阻害、酵素活性化機能(レニン・アンジオテンシン系と血圧、消化関連酵素阻害と糖尿病)

評価

期末テスト80点、出席点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】青柳康夫編著、有田政信、太田英明、大野信子、藺田勝、辻英明共著 『改訂食品機能学』建帛社

【推薦書】寺尾純二、山西倫太郎、高村任知共著 『食品機能学』光生館

科目名	食薬理学		
担当教員名	梅垣 敬三		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

食品成分も医薬品と同様に一つの化学物質としてとらえ、それら物質の人体に対する作用を薬理学的な観点から理解するための基礎知識を習得する。その基礎知識を踏まえて、食品と医薬品の違い、相互作用、安全性・有効性の評価に関する事項を理解し、氾濫する食品情報に適切に対応でき、さらに傷病者の栄養管理にも対応できる知識を習得する。

内容

総論

1. 食品と医薬品の特性と区分
2. 薬理作用と作用機序
3. 食品成分および医薬品の体内動態 -1 吸収
4. 食品成分および医薬品の体内動態 -2 分布
5. 食品成分および医薬品の体内動態 -3 代謝
6. 食品成分および医薬品の体内動態 -4 排泄
7. 食品成分および医薬品の体内動態に影響を与える因子
8. 食品-医薬品相互作用 -1 薬理学的相互作用の事例
9. 食品-医薬品相互作用 -2 薬物動態学的相互作用の事例
10. 食品と医薬品の安全性・有効性評価
11. いわゆる健康食品をとりまく現状と保健機能食品制度

各論

12. 高血圧の治療薬と、関連する特定保健用食品
13. 脂質異常症の治療薬と、関連する特定保健用食品
14. 糖尿病の治療薬と、関連する特定保健用食品
15. 骨粗鬆症の治療薬と、関連する特定保健用食品

評価

所定の出席回数に達した学生に対しペーパーテストを実施する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】安原一・小口勝司編 『わかりやすい薬理学』 ヌ-ヴェルヒロカワ

【推薦書】渡辺他編著 『クスリのことわかる本』 地人書館 499.1/K

山田・松村編著 『健康・栄養食品アドバイザーースタッフ・テキストブック』 第一出版
498.5/K

田中正敏著 『薬はなぜ効くか』 講談社 491.5/T

科目名	児童生徒の精神保健		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童生徒を対象とした精神保健を考える際に、成人のそれと大きく異なる点に「正常か、異常か」の評価が年齢によって異なるということがある。つまり、ある年齢では普通に見られる現象が、別の年齢では病的な兆しであるというような場合である。また、児童生徒の場合には、成人と違って、言語よりも身体で心の問題を表現するケースが多い。以上の点で、児童生徒の精神的な問題に対する診断・評価は常に困難を伴っている。しかし、この時期のサインを早期に見逃さず、適切に対応できれば、重症化することなく、本人の潜在的な可能性を十分に伸ばすことができる。

本授業では、児童期、青年期に生じる代表的な精神的な問題を取り上げる。そして、その見立て、対応について、事例を交えながら学んでいく。子どもの心の問題について、より臨床的な視点から理解を深めてもらいたい。

内容

1	児童生徒の精神保健の現在
2	注意欠陥多動性障害とは
3	注意欠陥多動性障害への対応
4	学習障害とは
5	学習障害への対応
6	アスペルガー障害とは
7	アスペルガー障害への対応
8	中間試験
9	摂食障害とは
10	摂食障害への対応
11	児童虐待とは
12	児童虐待への対応
13	薬物依存とその対応
14	期末試験
15	講評・解説

評価

中間試験(50点)と期末試験(50点)を評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は特に定めない。推薦書は適宜授業中に紹介する。

科目名	教職入門		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 位置づけ

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教職の意義等に関する科目」(2単位)に対応するものである。

2. 教育目的

- (1) 教職の意義と、教員の役割についての根本原理を学ぶ。
- (2) 教員の職務内容(サービス・研修など)について学ぶ。
- (3) 教員採用のあり方などを知る。

内容

内容は、次の8つの柱から構成し、これを14回の授業に展開する。

最終週の第15回は、期末の総合的筆記試験とする。

1. 教員生活の実際

公立学校教員の社会的使命について認識を深める。

2. 校務分掌の体系

教員が日常的に携わる「授業以外の基本業務」について、その体系と職務内容を学ぶ。

3. 学校教育と法体系

教育基本法、学校教育法をはじめとして、公教育の法的根拠と規定を学ぶ。

4. 学習指導要領の法的意義

初等中等教育における「学習指導要領」の法的拘束力について、正しい認識を身につける。

5. 教員の研修義務

教育公務員特例法にみる、教員の職責遂行義務と研修義務について、正しく理解する。

6. 「管理運営規則」とサービスのあり方

都道府県の定める条例(管理運営規則)の骨子を学び、学校経営の基本を理解する。

7. 学校をめぐる諸問題

公立学校をとりまく、社会問題について事例を学ぶ。

8. 教員採用システム(公立・私立)の実際とその対応

評価

毎回授業時の小テストと期末試験により評価する。小テスト50:期末試験50の比率で、60点以上を単位認定する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキストは、現在選定中であるので、初回の授業で指示を与える。

(いわゆる「教育小六法」を使用する)

科目名	教職入門		
担当教員名	天井 勝海		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- (1) 今日の学校教育上の具体的な課題を考察し、認識を深める。
- (2) これからの教職員に求められている資質や能力を養うとともに心構えなどについての認識を深める。
- (3) 教員採用試験の実際を学び、自己の進路実現に向けての方策を具体的に立てる。

内容

1	(1) 教職員の職務と校務分掌・教職員に求められる資質や能力
2	(2) 学習指導要領とその法的意義
3	(3) 新しい学習指導要領(中学校・高等学校)とその改訂方針
4	(4) 教育課程の編成とその実施
5	(5) 「生きる力」の育成と知識基盤社会の時代
6	(6) 授業の改善とその工夫
7	(7) 生徒指導とカウンセリングマインド
8	(8) 進路指導とキャリア教育
9	(9) 教育法規とその内容 (教育基本法・学校教育法等)
10	(10) 教職員に求められる資質や能力
11	(11) 教職員の研修とその体系
12	(12) 教員採用試験の実際とその対応 (1)
13	(13) 教員採用試験の実際とその対応 (2)
14	(14) 模擬授業とプレゼンテーション
15	(15) 進路実現に向けての具体的な方策

評価

出席20点・ペーパーテスト60点・発表と課題提出20点で総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】現代実践教職入門(学事出版) ・毎時間配布される資料

【推薦書】推薦図書は授業の際に紹介します。

科目名	教職入門		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	1	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 位置づけ

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教職の意義等に関する科目」(2単位)に対応するものである。

2. 教育目的

- (1) 教職の意義と、教員の役割についての根本原理を学ぶ。
- (2) 教員の職務内容(サービス・研修など)について学ぶ。
- (3) 教員採用のあり方などを知る。

内容

内容は、次の8つの柱から構成し、これを14回の授業に展開する。

最終週の第15回は、期末の総合的筆記試験とする。

1. 教員生活の実際

公立学校教員の社会的使命について認識を深める。

2. 校務分掌の体系

教員が日常的に携わる「授業以外の基本業務」について、その体系と職務内容を学ぶ。

3. 学校教育と法体系

教育基本法、学校教育法をはじめとして、公教育の法的根拠と規定を学ぶ。

4. 学習指導要領の法的意義

初等中等教育における「学習指導要領」の法的拘束力について、正しい認識を身につける。

5. 教員の研修義務

教育公務員特例法にみる、教員の職責遂行義務と研修義務について、正しく理解する。

6. 「管理運営規則」とサービスのあり方

都道府県の定める条例(管理運営規則)の骨子を学び、学校経営の基本を理解する。

7. 学校をめぐる諸問題

公立学校をとりまく、社会問題について事例を学ぶ。

8. 教員採用システム(公立・私立)の実際とその対応

評価

毎回授業時の小テストと期末試験により評価する。小テスト50:期末試験50の比率で、60点以上を単位認定する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキストは、現在選定中であるので、初回の授業で指示を与える。

(いわゆる「教育小六法」を使用する)

科目名	教育基礎論		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の位置づけ：教職課程の基礎科目として、各教科の基礎となる教育の基本理念、ならびに教育の歴史や思想について学習する。また今日の教育改革の動きなど、現代社会の動きと日本、諸外国の状況の変化と教育の関係についても触れる。
2. ねらい：教育についての 社会的・制度的事項、さらには情報化社会、国際化社会、生涯学習の時代など時代と人材論など、社会と人との関係に教育がどのように機能しているかなどを考える。教育現象を広くとらえ、現代社会における教育のあり方、人間形成のあり方にも触れる。

内容

1	現代教育の諸課題
2	新しい社会・21世紀の教育に向けて
3	教育改革の現状・取り組みの軌跡
4	新しい学力観とは
5	能動的な学習者を育てる
6	社会生活と教育・教育の機能と役割
7	子どもと社会環境
8	子ども観の変化
9	「子ども」の誕生の歴史
10	公教育と子どもの権利
11	近代学校の成立と学校の歴史
12	学校制度と教育体系
13	学校文化・教師文化
14	教師－生徒関係、学校を支える人たちの協働の時代
15	生涯学習時代の学習・教育

評価

課題レポート60点、発表・グループワーク30点、出席の合計100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

テキストは授業時に紹介する。

参考図書：『やさしい教育原理』（有斐閣）、『図説・教育の歴史』（河出書房新社）など。

科目名	教育基礎論		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 位置づけ

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育の基礎理論に関する科目」(4単位中の2単位)に対応するものである。

2. 教育目的

- (1) 教育の理念ならびに教育に関する歴史・思想について学ぶ。
- (2) 教育に関する制度、社会との関わり、学校経営の基本について学ぶ。

内容

15回のうち、14回を下記の内容で授業する。最終15回は総合的な筆記試験を行う。

1. 「教育」という概念をめぐって

西洋・東洋・日本の、それぞれにおける「教育」という概念の歴史的な理解の仕方について学ぶ。

2. ギリシア・ローマ時代の教育観

3. 中世・ルネサンスの教育観と「大学」の成立

4. 近代教育観の展開

「学校」という制度は「市民社会」の成立と並行して進展する。その課程をロック、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルトらの思想を学びながら理解する。

5. 20世紀の教育観

教育が「義務化」された課程を学ぶとともに、20世紀前半の代表的な教育思想を学ぶ。

6. ジョン・デューイの思想

プラグマティズムの代表的思想家デューイを手掛かりに、現代民主主義社会の教育について学ぶ。

7. 江戸時代以前の日本の教育

8. 明治から昭和初期の教育

9. 民主主義と戦後の教育体制

10. 教育基本法と学校制度

11. 教育行財政・社会教育・生涯学習

12. 教育の社会的基盤

評価

毎回授業時の小テストと期末考査により評価する。その比率は、小テスト50：期末試験50で、合計60以上を単位認定する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】桑原敏明・佐藤三郎 編著『学校教育の基盤 - 教育の本質と社会の中の学校』協同出版

その他は、初回授業時に指示する。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教職志望の初学者を主な対象としつつ、学習の動機づけ、学習の基礎理論、教授学習における学習理論、教育評価と教育測定について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。さらに、障害をもった生徒の学習の過程などについても取り扱う。

児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育や学習について考えるヒントを提示するのが本講義のねらいである。

内容

1. 教育心理学とは

- ・教育活動とは何か
- ・学校教育と教育心理学

2. 学習の動機づけ

- ・欲求と動機づけ
- ・内発的動機づけ
- ・統制感、原因帰属
- ・期待 - 価値モデル

3. 学習の基礎メカニズム

- ・学習と条件づけ
- ・観察学習と学習の諸相
- ・学習における記憶の役割
- ・問題解決としての学習

4. 授業における学習理論

- ・プログラム学習、発見学習、有意味受容学習
- ・適性処遇交互作用
- ・総合的な学習の時間

5. 学習成果の評価と測定

- ・評価の意義と役割・絶対評価、相対評価、到達度評価
- ・診断的評価、形成的評価、総括的評価・心理検査と心理測定

評価

評価は、学期末試験100点満点により行う。なお、単位認定にあたっては、欠席が授業回数の1/5以下であることを必須条件とする。

評価の基準は、教育活動を理解するために有効である教育心理学の理論や知見を正確に理解し自らの知識として定着しているのかである。毎回の授業における内容を論理的に理解し、必要な事項を身につけることを求める。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】桜井茂男編 『たのしく学べる最新教育心理学』 図書文化

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童生徒の心身の発達、学級・学校集団の特質、学校臨床を中心に取り上げる。学校教育における「生きる力を育む」ための「学び」の本質を理解するとともに、児童期から青年期へと進む児童・生徒の心理的諸特性がどのように発達するのかについて、心理学的な知見を学ぶとともに、日常生活のなかでの現象を具体的に考える。さらに、障害をもった生徒の心身の発達などについても取り扱う。

本科目のねらいは、受講生自身や級友・学友たちがどのように学び成長し発達してきたのかを、科学的かつ客観的にとらえ直す視点を提示し、分析的に理解する試みの機会を提供することにある。

内容

1. 発達

- ・発達の一般的特徴 ・遺伝的要因と環境的要因
- ・発達段階と発達課題

2. 知的能力・社会性の発達

- ・知的能力の発達 ・学力と学業不振
- ・道徳性の獲得 ・ソーシャルスキル

3. 学習者の特性理解

- ・パーソナリティの理論と測定法
- ・障害とは何か ・特別支援教育

4. 学級集団、学級の間人間関係

- ・学級集団の特殊性 ・教師期待効果
- ・学級雰囲気と目標達成 ・生徒間の人間関係

5. 学校臨床

- ・学校不適応 ・心身の健康問題とその支援

評価

評価は、学期末試験100点満点で行う。なお、単位認定にあたっては、欠席が授業回数の1/5以下であることを必須条件とする。

評価の基準は、授業内で扱った教育心理学の知見や理論を体系的に理解し自らの知識として獲得しているか、学校教育現場での諸相に獲得した知識を適用してより深い理解や支援の方法を考えることができるようになったかという点である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】 桜井茂男編 『たのしく学べる最新教育心理学』 図書文化

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。

特に教育課程編成に関わる知識と教育方法理論の関係を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

内容

- 1 教育の目的と方法
- 2 教育課程の類型：教科主義と開発主義
- 3 カリキュラムの構成要素
- 4 教育方法の歴史的変遷 (1) 教科主義的カリキュラムと教育方法
- 5 教育方法の歴史的変遷 (2) 経験主義的カリキュラムと教育方法
- 6 教育方法の歴史的変遷 (3) 近代の教育カリキュラムと教育方法
- 7 わが国における教育方法の歴史的変遷
- 8 いろいろな教授法 (1) 学習集団と教授法
- 9 いろいろな教授法 (2) 教材開発と教具の利用
- 10 いろいろな教授法 (2) 新しい教授法
- 10 学習指導の技術
- 11・12 学習指導要領の変遷 (1) 歴史的変遷
- 13 学習指導要領の変遷 (2) 現行指導要領の特徴
- 14 世界のカリキュラム改革
- 15 最終試験

プレゼンテーションにあわせた資料プリントを毎回配布する。プレゼンテーションファイルはホームページで随時公開している。

毎時間課題プリントを実施する。

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 出席状況 (30%)
- 2 最終試験の達成度 (70%)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特に定めない

科目名	教育方法		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義は、次のことを目標として展開する。

1. 中等教育における教育方法学の基本について学ぶ。
2. とくに教育メディア活用についての諸問題について学ぶ。

なお本科目は、教員免許法に定める「教育課程及び指導法に関する科目」の2単位に対応するものである。

内容

内容は次の通りである。

1. 教育課程の意義と類型
2. 教育課程の編成
3. 学習指導の意義と目標
4. 教材とその研究
5. 学習指導の原理
6. 学習指導課程
7. 学習集団の組織
8. 授業と指導技術
9. 教授メディアとその活用
10. コンピュータ利用の学習指導 (総論)
11. 授業設計の実際
12. ~ 14. 東京都教育委員会の取り組み
15. 期末試験

評価

毎回授業冒頭の小テスト・定期試験により評価する。その比率は50点 : 50点とする。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】長谷川栄・佐々木俊介編著 『教育の方法と技術 - 実践的指導力の基礎を培う』 協同出版
 天井・橋本編著 『現代実践教職入門』 学事出版

科目名	道徳教育		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校一種・高校一種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

道徳教育の理念や歴史について理解を深め、中学校・高等学校における道徳教育の進め方について多角的に考察する。

【留意すべきこと】 中学校一種の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること

内容

1	1	学習指導要領における道徳教育の位置づけ
2	2	社会規範としての道徳 道徳教育に関する一般的認識のずれ
3	3	現代社会における道徳教育の課題 青少年の問題状況・現代社会の道徳的問題
4	4	道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育・道徳の本質・理論的基礎
5	5	学校における道徳教育の基本構造 学校の社会的任務・道徳教育の目標と内容
6	6	学校の全教育活動における総合的展開
7	7	学校における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画・道徳の時間の指導
8	8	道徳の時間の指導案と指導の諸方法 学習指導案の作成
9	9	学校における道徳教育の基礎 道徳における行為決定のしくみ・学校における道徳教育
10	10	学校における道徳の授業 どんな資料で何をねらうか
11	11	これからの時代に要求される道徳教育 道徳教育をめぐる動向・道徳教育の新しい発想
12	12	学習指導案の検討と模擬授業の準備
13	13	模擬授業の実践(1)
14	14	模擬授業の実践(2)
15	15	模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60点及び平常の成績、出席等40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】 遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校(高等学校)学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物

【推薦書】 押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	道徳教育		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

今日、学校における道徳教育については、そのさらなる充実が求められている。しかしながら、価値多様化社会とも呼ばれる今日にあって、そもそも道徳とは何かについて問われることは少なく、また、児童・生徒において価値観をどう育むのかについては、道徳教育の固有の課題として、今後、さらなる検討が必要であろう。

本授業では、規範や価値をめぐる現代社会の今日的状況を射程に入れながら、学校における道徳教育の位置づけと実際について学び、これからの道徳教育のあり方について考える。

内容

1. 子どもにおける価値観の形成について考える 価値多様化社会のなかで
2. 道徳と教育、心の教育
3. 学校での道徳教育と「道徳の時間」の位置づけ、役割
4. 道徳教育の変遷 - 明治期における道徳教育
5. 道徳教育の変遷 - 「道徳の時間」の特設
6. わが国における道徳教育の実践と再編
7. 他国にみる道徳教育
8. 道徳的心情の形成をねらいとする指導の実際 - 「基本型」
9. 道徳的判断力の形成をねらいとする指導の実際 モラル・ジレンマ
10. 発達に応じた指導について考える 道徳性の発達理論
11. 発達に応じた指導について考える 道徳性の発達理論
12. 他律と自律 - 主体的であるとはどのようなことか
13. 自己と他者、関係性の構築
14. 副読本の検討、映像資料の活用について
15. 試験

評価

試験60%、課題提出20%、出席20%による総合評価とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】小寺正一・藤永芳純 編『新版 道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社

【推薦書】徳永正直・宮島秀光・榊原志保・堤正史・林泰成『道徳教育論 - 対話による対話への教育』

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』

文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 学校教育の今日的課題である「生きる力」を育成することが重要な課題である。その課題を果たすべき役割を特別活動の視点から考察する。
2. 特別活動の理念や歴史について学び、学校教育における特別活動の位置づけについて理解を深めるとともに、特別活動の進め方について実践的に考察する。
3. 中学校・高等学校における特別活動の目標・内容・指導のありかた等について考察する。

本科目は、教員免許法に定める科目に対応する。教員の免許を取得しようとする者は、必修である。

内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動の指導案の作成	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史的変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等望ましい実施と指導上の配慮事項	
11	11. 総合的な学習の時間との連携	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践 (1)	
14	14. 模擬授業の実践 (2)	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

評価

レポート課題60点及び平常の成績、出席等40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校 (高等学校) 学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校 (高等学校) 学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物 (ぎょうせい出版)

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	生徒指導		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

生徒指導については、高校時代までに、指導を受けるという経験を通して、ある程度は知っているであろう。しかし、それは必ずしも当を得た理解とは限らない。そこで、生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法について、きちんと理解を図ることを目的とする。合わせて、進路指導についても同様に理解を深めることをねらう。

内容

1. 生徒指導の意義と目的
2. 生徒指導の領域・内容と課題
3. 生徒指導と教育課程との関連
4. 生徒指導の組織と計画
5. 児童・生徒理解の意義と重要性
6. 児童・生徒理解の内容
7. 児童・生徒理解の方法 (観察法)
8. 児童・生徒理解の方法 (面接法)
9. 児童・生徒理解の方法 (検査法)
10. 生徒指導における集団活動の意義と重要性
11. 生徒指導における集団指導の方法
12. 進路指導の目的と内容 (その 1)
13. 進路指導の内容 (その 2)
14. 進路指導の方法
15. 試験

授業は教科書を使って行うが、必要に応じて、別途プリントや資料を配布して、講義形式で行う。そして、質問を発して、考えてもらい、挙手の形で答えてもらうという質問応答の方法を取り入れて行う。

また、毎回の授業中に、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習を兼ねて何回か質問を発するが、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

評価

平常点と受講態度 (20点)、試験 (80点) の計100点。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】江川? 成編著 『生徒指導の理論と方法 (三訂版) 』 学芸図書

【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所

江川? 成編集 『校長・教頭のための児童・生徒問題対応百科』 教育開発研究所

上寺久雄編 『生徒指導』 有信堂

推薦書・参考図書については、これ以外にも授業で提示する。

科目名	教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

位置づけ：教職科目の中の「生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目」に対応する。

目 標：教育相談の意義や理論、知識や技法等を中心にその教育実践についても学ぶ。

概 要：教育相談の理論や技法等についての基礎的知識のみならず相談担当者としての資質も含め、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学習する。

内容

講義の方針：学校現場において、児童生徒を指導するために身につけておくべき基礎知識を解説する。加えて、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための心理学的知識やアセスメント方法を学ぶ。

講義の進め方：講義を主とする。なお、授業中もしくは授業後に、トピックに関する意見や感想などの提出を求めることもある。

内容：主に以下のトピックスを15回に分けて取り扱う予定である。

- 1) 今日の教育環境における学習者が抱える課題
- 2) 「教育相談」学習の意義
- 3) 「教育相談」の概念
- 4) 「教育相談」の心理学的基礎
- 5) 「教育相談」のすすめ方
- 6) 「教育相談」における心理アセスメント
- 7) 「教育相談」の技法
- 8) 「教育相談」の技法
- 9) 主な行動問題の理解と対応のポイント
- 10) 学校教育の課題

評価

【評価の方法】出席、講義への参加度、試験を総合的に評価する。配分は、出席：30点、講義レポート（講義中に数回課す予定）：20点、試験：50点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】一丸藤太郎・菅野信夫著 『学校教育相談』 ミネルヴァ書房 2002

【推薦書】岡田守弘監修 『教師のための学校教育相談学』 ナカニシヤ出版 2008

有村久春著 『キーワードで学ぶ 特別活動・生徒指導・教育相談』 金子書房 2009

菅野純著 『教師のための学校カウンセリングゼミナール』 実務教育出版 1995

科目名	総合演習		
担当教員名	井口 磯夫、鎌田 恒夫、橋本 ヒロ子、宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- ・ 人類共通の課題として国際理解、環境問題等があり、わが国の課題としては福祉・健康や家族関係等が挙げられる。これらの中から複数の課題について、受講者の興味関心に応じて具体的なテーマを選択し、複数の教員の専門分野から指導を受けて、現実の社会の状況を適切に理解できるようにする。
- ・ 演習・実習を通して、文献や資料の検索方法、身近な観察、実験、野外実習に基づく生命科学や自然科学からのアプローチの方法、社会福祉等における現場教育の意義、コンピュータを駆使してのデータのまとめ方、口頭や文章による成果の公表の仕方などを身に付ける。

内容

1. 総合科目の意義とねらい、4領域の課題に対して、共通のテーマを設定する。
2. 情報社会と教育（井口磯夫）、情報教育の流れについて「福祉」という視点から調査する。情報バリアフリー、ユニバーサルデザイン、デジタルディバイドなどについて議論する。（3回）
3. 生命科学と環境問題（鎌田恒夫）、生命科学からみた「環境問題」が生態系に与える影響の調査、食化学と環境問題について学ぶ。合わせて、福祉との関連から探究する。（3回）
4. 国際理解教育（橋本ヒロ子）、世界の福祉行政について、必要な情報の収集、判断の基準などについてインターネットを活用して実習する。（3回）
5. 地域社会と福祉（宮城道子）、現代社会における福祉の理念を理解する前提として、社会福祉制度や施設についての基礎知識の講義および見学・実技等の体験的授業を行う。（3回）
6. 発表会（受講者全員）
7. まとめ

評価

各担当教員が課する課題（20%ずつ）について合計80%、授業態度（20%）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各担当教員が授業中に配布する。

科目名	総合演習		
担当教員名	松野 智子、宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人類共通の課題として国際理解、環境問題、福祉・健康・家族関係等が挙げられる。これらの中からの課題について、具体的なテーマを選択し、複数の教員の専門分野から指導を受けて、現実の社会の状況を適切に理解できる能力の育成を目指すものである。

内容

1	総合科目の意義について
2	総合科目の目指すものについて
3	健康について (1)
4	健康について (2)
5	健康について (3)
6	新型コロナウイルスの予防について (1)
7	子どもの発育・発達の理解について
8	子どもの生活行動について
9	子どもを取り巻く環境について
10	福祉の理念について
11	社会福祉制度について (1)
12	社会福祉制度について (2)
13	社会福祉施設について (1)
14	社会福祉施設について (2)
15	試験

評価

小テスト・演習時における発表内容等 70 点、平常点 (レポ - ト・提出物など) 30 点で評価し、60 点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	養護実習		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護実習を行う事前の指導の場として、これまで習得してきた知識・理論・方法等について再確認をする。さらには、学校現場での実習生としての心構えや行動などの具体的な指導を行い、養護教諭としての役割と学校組織の一員としての責任と自覚をもたせることを目指す。また、事後においては実習中の自己評価により、今後、努力が必要と考えられる事項を明確にさせ、将来に向けて質の高い養護教諭の育成を目指すものである。

内容

1. 事前指導

- (1) 養護実習オリエンテーション
 - ・実習の目的
 - ・実習時における勤務等の心得
 - ・実習記録の作成法
- (2) 実習中の課題について
- (3) 実習中における教職員との連携について
- (4) 実習校訪問

2. 事後指導

- (1) 養護実習反省会の実施
 - ・実習総括
 - ・課題取組成果の発表
- (2) 実習校訪問

評価

実習前における課題の設定の考え方とそのまとめ方、実習日誌の書き方、課題のまとめ方、自己評価の方法、実習のプレゼンなどの総合的な評価とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	養護実習		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校現場における実習は、大学の授業等で習得した養護教諭に必要な理論・技術を基礎に子どもへの対応を中心に、保健室経営を体験することで、保健室経営の考え方や養護教諭の役割と具体的な方法について認識し、さらには学校教育全体に触れることにより、学校保健活動と養護教諭の役割が教育活動の一環として位置付けられていることを理解させることを目指すものである。

内容

1. 学校組織の理解について
2. 養護教諭の活動の実際
3. 学校保健計画及び保健室経営計画等の理解
4. 教科保健および保健指導等の活動の実際
5. 教職員、学校医等、保護者、地域の関係機関等との連携について
6. 教育者としての倫理観の体得について

評価

実習校からの出勤簿、実習成績評価票、実習日誌を総合して評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	教育方法		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育方法は広義には、教育内容、学習形態、教授組織、教育メディア、学級経営、生活指導、学習環境、授業評価など、学校教育に関するあらゆる技術的な問題を扱う分野である。

本講義では、授業設計を中心に学ぶ。授業設計の中に取り入れるさまざまな情報機器の活用 (特にコンピュータの利用) の方法について学ぶ。

内容

1. 教授・学習過程のシステム分析 (ブラックボックスと制御システム)
2. 教授・学習過程とコミュニケーション過程 (コンフリクトをもつフィードバックシステム)
3. カリキュラム開発と教育工学
4. 授業目標の設定 (教育目標の分類と行動目標、評価の観点、ルーブリック)
5. 学習集団の編成 (学級集団、集団の機能、集団学習形態の特質、集団の編成)
6. 授業の個別化の理論と実際 (適性処遇交互作用、コンピュータによる個別化)
7. 教材とその開発研究 (教材作成の意義、教材の評価の観点、教材作成の研究的意義)
8. 教授メディアの考え方
9. 教授メディアを活用した学習指導案と授業実施
10. ICT (情報機器) の授業への利用と実際
11. プロジェクタ教材を活用した授業 (プレゼンテーション技法)
12. コンピュータ実習 (コースウェア作成技法1)
13. コンピュータ実習 (コースウェア作成技法2)
14. 授業改善のための評価基準
15. まとめ

評価

最終レポート (50%)、課題等の提出物 (30%) と授業中の課題への取り組む (10%)、出席状況 (10%) による総合的な評価とし、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定なし。毎時間資料を配布する。授業用フォルダ内に授業用ワークシートを置く。

【参考書】教育方法 の教科書、松平信久・横須賀薫編 『教育の方法・技術』 教育出版

科目名	教職演習		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護教諭に必要な資質・能力を担保するために、これまでの習得した知識と技能を基に、管理の方法や指導の方法等について演習や体験を通して、より具体的に習得することを目指すものである。

内容

1	各種計画立案の実際とその伝達について (1)
2	各種計画立案の実際とその伝達について (2)
3	各種計画立案の実際とその伝達について (3)
4	各種計画立案の実際とその伝達について (4)
5	各種計画立案の実際とその伝達について (5)
6	管理に必要な事務処理の理解と実際 (1)
7	管理に必要な事務処理の理解と実際 (2)
8	管理に必要な事務処理の理解と実際 (3)
9	指導案作成について (1)
10	指導案作成について (2)
11	指導案作成について (3)
12	指導案作成について (4)
13	保健指導、保健学習の実際 (1)
14	保健指導、保健学習の実際 (2)
15	保健指導、保健学習の実際 (3)

評価

演習における発表内容等 70 点、平常点 (提出物など) 30 点で評価し、60 点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	教職演習		
担当教員名	松野 智子、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護教諭に求められる資質や能力、教育職員としての心構えなどについて認識を深めることをねらいとし、養護教諭としての専門分野の知識と技能の確実な習得と適確な活用及び学校教育の具体的な課題について、講義・演習を通して理解を深めることを目指すものである。

内容

1	「学校保健」に関すること(1)
2	「学校保健」に関すること(2)
3	「養護の職務」に関すること(1)
4	「養護の職務」に関すること(2)
5	「養護の職務」に関すること(3)
6	「健康相談」に関すること(1)
7	「健康相談」に関すること(2)
8	「健康相談」に関すること(3)
9	「子どもの健康問題」に関すること(1)
10	「子どもの健康問題」に関すること(2)
11	「学校教育の課題」に関すること(1)
12	「学校教育の課題」に関すること(2)
13	「学校教育の課題」に関すること(3)
14	「学校教育の課題」に関すること(4)
15	「学校教育の課題」に関すること(5)

評価

演習時の発表内容・態度など70点、平常点(提出物など)30点で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	教職演習		
担当教員名	天井 勝海		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

我が国の学校教育においては、国際化・情報化・高齢化・少子化などの著しい進展に伴い、児童生徒を取り巻く環境が急変する中で、教育上の様々な課題が生じている。このことを踏まえ、具体的な課題を取り上げ、課題解決に向けた実践的な指導力やそのために必要な資質や能力を育てる。

内容

- 1 学校教育の現状と課題
- 2 学校改革の推進と特色ある教育課程の編成
- 3 個に応じた授業の推進と授業力
- 4 授業の改善と授業評価
- 5 生徒の問題行動と生徒指導の在り方
- 6 いじめ問題への対応
- 7 いじめ問題が生まれない学級づくり・学校づくり
- 8 不登校問題への対応
- 9 不登校問題が生まれない学級づくり・学校づくり
- 10 キャリア教育と進路指導
- 11 体験学習の推進と心の教育
- 12 地域に開かれた学校教育
- 13 人権教育の推進
- 14 これからの学校経営の在り方
- 15 教育公務員として自覚と責任

評価

出席20点・テスト60点・発表と課題提出20点で総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 現代実践教職入門(学事出版)・毎時間配布される資料

推薦書 授業の際に内容に応じて紹介します。

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	名倉 秀子、清野 芳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童・生徒の食生活の乱れが近年深刻化されている。学校において食に関する指導を行い、児童・生徒が望ましい食習慣を身につけることが栄養教諭の使命といえる。

栄養教諭実践論 では、栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項や幼児、児童・生徒の栄養に係る課題に関する事項について理解を深める。

内容

1	栄養教諭とは
2	児童・生徒の栄養の指導及び管理の意義
3	児童・生徒の栄養指導及び管理の現状と課題
4	児童・生徒の食事に関する実態把握及び分析等の必要事項
5	栄養教諭の職務内容
6	栄養教諭の使命、役割
7	学校給食の意義
8	学校給食の役割
9	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る社会事情
10	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る法令ならびに諸制度
11	国民の栄養をめぐる諸事情
12	児童・生徒の栄養に係る諸課題
13	食生活に関する歴史
14	食事及び食物の文化的事柄
15	まとめ

評価

レポート30点及びペーパーテスト70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】笠原賀子編著 『栄養教諭のための学校栄養教育論』 医歯薬出版

文部科学省著 『食に関する指導の手引き』 東山書房

小学校学習指導要領 文部科学省、中学校学習指導要領 文部科学省

【推薦書】川戸喜美枝編著 『栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫なからだを育てる食の教育 - 』 (株)ぎょうせい 374.94/K

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	名倉 秀子、清野 芳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

栄養教諭実践論 では、食に関する指導の方法について学習する。

内容

1	「食に関する指導」の位置づけを理解する
2	学校全体で取り組む食に関する指導にかかる全体的な指導計画の作成
3	給食に時間における食に関する指導
4	家庭科、技術・家庭科における食に関する指導
5	体育科、保健体育科における食に関する指導
6	道徳、特別活動における食に関する指導
7	生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導
8	食物アレルギー、肥満傾向などの個別指導のあり方
9	演習1 食生活学習教材・食に関する指導参考資料を活用した食に関する指導
10	演習2 食に関する指導の指導案作り
11	演習3 作成した指導案の発表，相互批評など
12	演習4 模擬授業、指導効果の評価
13	学校、家庭が連携した食に関する指導
14	学校、地域（保健所、保健センター、食生活改善推進委員会）が連携した食に関する指導
15	まとめ

評価

レポートや課題発表等50点及びペーパーテスト50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】笠原賀子編著 『栄養教諭のための学校栄養教育論』 医歯薬出版
 文部科学省著 『食に関する指導の手引き』 東山書房

小学校学習指導要領 文部科学省、中学校学習指導要領 文部科学省

【推薦書】川戸喜美枝編著 『栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫なからだを育てる食の教育 - 』（株）ぎょうせい 374.94/K

科目名	道徳教育・特別活動論		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、栄養教諭一種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程に関する科目」に対応するものである。

道徳教育・特別活動論の理念や歴史について理解を深め、初等教育ならびに中等教育における道徳教育・特別活動の進め方について多角的に考察する。

学校教育の目指す「生きる力」を育成するためには、その要素の一つである「豊かな心」の育成が重要な課題となる。その課題達成に果たすべき役割を道徳教育・特別活動の視点から考察する。

内容

1	1. 学習指導要領における道徳教育・特別活動の位置づけ
2	2. 道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育の必要性
3	3. 学校における道徳教育の基本構造、道徳教育の目標と内容 学校の社会的任務
4	4. 学校教育における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画
5	5. 道徳の時間の指導 道徳学習指導案の作成
6	6. 学校教育の今日的課題と特別活動 社会動向と学校の教育的課題
7	7. 特別活動の教育的課題 特別活動の性格、個性の育成、社会性の育成、問題解決力の伸張
8	8. 学級活動の意義と指導の実際 意義と性格、内容・方法・評価、展開事例
9	9. 学級活動の展開事例と今日的課題 学級活動の指導案
10	10. 学級活動の指導案
11	11. 児童会・生徒会活動、クラブ活動・部活動、学校行事
12	12. 学級活動の進め方 司会グループと計画委員会
13	13. 模擬授業の実践(1)
14	14. 模擬授業の実践(2)
15	15. 模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60点及び平常の成績、出席等40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物(ぎょうせい出版)

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物(ぎょうせい出版)

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	清野 芳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校における実習が始まる前に、栄養教諭の職務内容について、知識・技術を再確認する。実習後は、自らの実習体験をもとに栄養教諭の役割について理解を深める。

内容

[栄養教諭実習前] 実習準備に結び付く内容を検討・確認する。

栄養教諭実習の意識や目的、心構え、実習の評価の方法、実習ノートや指導案の書き方、実習中の大学との連絡方法などを検討し、確認する。

[栄養教諭実習後] 実習体験の報告をもとに、問題点の整理、今後の課題を明確化し、栄養教諭の職務活動の展開を考える。

評価

平常点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

実習ノート・プリント配布

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	清野 芳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

栄養に関する科目、栄養教諭実習 で習得したことをふまえて、栄養教諭実習 では、実際に学校での職務について参観し、実習を実施する。

内容

1. 指導教諭等から学校経営、校務分掌、服務等の説明をうける。
2. 児童・生徒への個別的な相談、指導の実習 指導・相談の場の参観ならびに補助をおこなう。
3. 児童・生徒への教科・特別活動等における指導の実習 学級活動及び給食の時間における指導の参観ならびに補助。教科等における教科担任等と連携した指導の参観ならびに補助。給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観ならびに補助。児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観ならびに補助。指導計画案、指導案の立案作成、教材研究等をおこなう。
4. 食に関する指導の連携・調整の実習 校内における連携・調整(学級担任、研究授業の企画立案、構内研修等)の参観ならびに補助。家庭・地域との連携・調整の参観ならびに補助等をおこなう。

評価

実習先の評価及び実習記録ノート・巡回担当者の評価をあわせ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

実習ノート

科目名	福祉教科教育法		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

高等学校の教科「福祉」を担当する教員として必要な基礎的知識・技能の習得及び力量形成をねらいとする。具体的には下記の事がらである。

高等学校福祉科の基本的理念、指導内容・指導方法等についての基本的理解

福祉観の捉え直し（意識化と相互理解・相互啓発）

学習指導の各種手法についての体験的・実践的理解

上記を通しての教育観の捉え直し

教育法 では福祉科のねらいと特質、単元構成、教材研究などを中心に基礎的な項目を取り上げて学習する。授業では、講義、演習、発表、体験的实践等の方法をを取り入れる。少人数ゆえにこそ、各学生の学びへの主体的・積極的な問題意識と参加が求められる。

内容

1. 福祉教育の意義と福祉
2. 福祉科の目標
3. 福祉科の内容構成
4. 7科目の教材研究 「社会福祉基礎」
5. 7教科の教材研究 「社会福祉制度」
6. 7教科の教材研究 「社会福祉援助技術」
7. 7科目の教材研究 「基礎介護」
8. 7教科の教材研究 「社会福祉実習」
9. 7教科の教材研究 「社会福祉演習」
10. 7教科の教材研究 「福祉情報処理」
11. 教材研究のまとめ
12. 福祉科の指導上の留意点
13. 福祉科における実習・演習の意義と指導法
14. 福祉科における実習・演習の意義と指導法
15. 福祉教育とボランティア学習

評価

レポート、発表、課題提出などの状況をもとに総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・ 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 福祉編』 実教出版
- ・ 大橋謙策編 『福祉科指導法入門』 中央法規出版

科目名	福祉教科教育法		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

「福祉教科教育法」に引き続き、高等学校の教科「福祉」を担当する教員として必要な基礎的知識・技能の修得及び力量形成をねらいとする。具体的には下記の事がらである。

高等学校福祉科の基本的理念、指導内容・指導方法等についての基本的理解

福祉観の捉え直し（意識化と相互理解・相互啓発）

学習指導の各種手法についての体験的・実践的理解

上記を通しての教育観の捉え直し

福祉教科教育法 では、学習指導、授業研究、実習の指導などを体験的・実践的に学ぶことにする。授業では、引き続き、講義、演習、発表、体験的実践等の方法を取り入れる。少人数ゆえにこそ、各学生の学びへの主体的・積極的な問題意識と参加が求められる。なお、福祉教科教育法 の履修済が前提となる。

内容

1. 授業のねらいと概要（学習指導案作成及び各科目指導法について）
2. 福祉科の指導法の概要
3. 「社会福祉基礎」の目標とその指導法
4. 「介護福祉基礎」の目標とその指導法
5. 「コミュニケーション技術」の目標とその指導法
6. 「生活支援技術」の目標とその指導法
7. 「介護過程」の目標とその指導法
8. 「介護総合演習」の目標とその指導法
9. 「介護実習」の目標とその指導法
10. 「こころとからだの理解」の目標とその指導法
11. 「福祉情報活用」の目標とその指導法
12. 福祉科学習指導案の作成と改善の検討
13. 模擬授業1（授業評価及び指導案の検討を含む）
14. 模擬授業2（授業評価及び指導案の検討を含む）
15. 模擬授業3（授業評価及び指導案の検討を含む）

評価

次の観点から、ミニレポートと最終的に提出する学習指導案を含むレポートにより評価する。

- ・福祉科各科目の目標とその指導法を理解できたか。
- ・福祉科学習指導案を作成する力を身につけたか。
- ・模擬授業演習を通じて、学習指導案を検討し、授業を改善することができたか。

ミニレポート（出席状況を含む）30点、最終レポート70点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・大橋謙策監修『文部科学省検定済教科書 社会福祉基礎』中央法規
その他参考書は、必要に応じて紹介する。

科目名	教育実習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたっての具体的な事前・中間・事後の指導を行う。この指導により参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教職をめざす者としての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

- ・教育実習オリエンテーション
- ・実習時おける勤務・サービスの心得
- ・実習記録の作成法
- ・配当科目についての最終的な指導案の作成
- ・実習校訪問

2. 中間指導

- ・前期実習を振り返っての反省会
- ・実習日誌の中間提出
- ・後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- ・教育実習総括反省会の実施
- ・実習校訪問

評価

授業への出席、教材研究や模擬授業課題の状況、教職をめざす者としての心構えの理解や授業運営能力などを総合的に行う。提出物としてはレポート、実習日誌などが課せられる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書・参考書等は授業の中で適宜紹介する。

科目名	教育実習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- 1．教職科目、教科関連科目、教育実習 で習得してきた内容を踏まえて、教育実習 では実際に学校 現場で授業を担当する。これまで習得してきた教科・授業方法等に関する知識を主体的・実践的な レベルに転換し、教職をめざす者としての総合的力量を身につける。
- 2．学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性や能力を自己覚知する。
- 3．本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「福祉」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）の増加単位（選択）の2単位分に対応する。

内容

実習校における3週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「実習日誌」等の資料に基づき評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	教育実習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1.教職科目、教科関連科目、教育実習 で習得してきた内容を踏まえて、教育実習 では実際に学 校現場で授業を担当する。これまで習得してきた教科・授業方法等に関する知識を主体的・実践的 なレベルに転換し、教職をめざす者としての総合的力量を身につける。
2. 学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性や能力を自己覚知する。
3. 本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「福祉」で必修とされる2単位 分に対応する。

内容

実習校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「実習日誌」等の資料に基づき評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	学校保健		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校教育の一環として学校保健を担う養護教諭に求められるものは、学校保健活動の中核的な役割を果たすことにある。「学校保健」の科目で学習したことを基礎に、さらに保健教育、保健管理等に必要なことについて理解を深め、養護教諭としての役割を果たせる養護教諭の育成を目指すものである。

内容

1	感染症の理解(1)
2	感染症の理解(2)
3	子どもの心身の健康問題への支援について(1)
4	子どもの心身の健康問題への支援について(2)
5	子どもの心身の健康問題への支援について(3)
6	健康診断について(1)
7	健康診断について(2)
8	健康診断について(3)
9	健康診断について(4)
10	健康教育について(1)
11	健康教育について(2)
12	養護教諭について(1)
13	養護教諭について(2)
14	学校における危機管理について
15	試験

評価

期末テスト70点、平常点(提出物など)30点で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	解剖生理学		
担当教員名	志村 二三夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の精神は生涯にわたって発達しつづける。この営みの座である脳の素晴らしい働きを理解するには、その基盤となる“人体の構造と機能”を正しく理解する必要がある。解剖生理学では、“正常な人体の仕組みについて、人体の構成単位である細胞レベルから組織・器官・器官系レベルまでの構造や機能を体系的に理解することをめざす。解剖学は人体の構造、生理学は機能に関する基礎科学であるが、この授業では、生理学を理解するための解剖学という立場から、人体の構造と機能を密接に関連付けて学ぶ。

内容

1. 人体の階層構造(細胞<細胞小器官・遺伝子>・組織・器官・器官系)
2. 骨格系の構造と機能
3. 筋系の構造と機能
4. 血液・造血器・リンパ系の構造と機能
5. 循環系の構造と機能 -
6. 循環系の構造と機能 -
7. 消化系の構造と機能 -
8. 消化系の構造と機能 -
9. 呼吸系の構造と機能
10. 腎・尿路系の構造と機能
12. 生殖系の構造と機能
13. 内分泌系の構造と機能
14. 神経系・感覚系の構造と機能 -
15. 神経系・感覚系の構造と機能 -

評価

ペーパーテストにより評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】板倉弘重(編著)『解剖生理学』光生館

【推薦書】志村二三夫・岡 純・山田和彦(編著)栄養科学イラストレイテッド『解剖生理学』羊土社

竹内修二 『解剖生理学』 医学芸術社

石田均一・板倉弘重・志村二三夫・田中清(編著)『臨床医科学入門』光生館

エイレン N他(著)林正健二他(訳)『人体の構造と機能』医学書院

科目名	解剖生理学特論		
担当教員名	森 三樹雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

近年、医学や医療に関する急速な進歩に伴い、医療を必要とする職種において、広範囲な医療知識と高度な専門技術が求められている。ここでは、解剖生理学という、人体の解剖学とその生理学的機能を学ぶことにより、医学の基本知識を身につけることができる。この学問を基礎にして、種々の病気を理解することができるようになり、社会人となった時に役立つ学問である。

内容

1	疾患による細胞、組織の変化 疾患の診断
2	疾患の治療
3	臨床検査
4	糖代謝とその異常
5	脂質代謝とその異常
6	蛋白質、核酸の代謝とその異常
7	栄養障害 摂食障害
8	消化管および肝、胆道, 膵臓疾患
9	循環障害と循環器疾患
10	腎・尿路疾患
11	内分泌疾患
12	骨代謝と筋・骨格疾患 呼吸器疾患
13	血駅疾患
14	ペーパーテスト 4者択一試験
15	免疫・アレルギー疾患 小児の疾患

評価

出席30点 + ペーパーテスト70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】伊藤節子 編 『臨床病態学』 化学同人 2009
- 【推薦書】高野 康夫編 『解剖生理学』 化学同人 2004
- 【推薦書】森 三樹雄編 『やさしい臨床検査』 南山堂 2008